

令和4年度 長田小学校学校評価結果についての考察

(保護者評価)

○評価の高い項目

- ・いじめはいけない 96.5%
- ・学校のきまりを守る 95.1%
- ・学校の様子を伝えている 92.7%
- ・安全指導、危機管理 92.7%

普段から担任の先生方の規範意識・いじめへの指導が児童へ浸透し結果に反映されていると思われる。学校のきまりを守ることやいじめがいけないと認識し、家庭でも保護者にきちんと伝えていることがうかがえる。また、学校だより、学年だより等を家庭に持ち帰り、保護者に目を通していただいている結果が反映している。同じく、安全指導への情報提供に関して同様に浸透し、今後も継続していきたい。

●評価の低い項目

- ・読書習慣 50.2%
- ・英語の授業について話す 62.4%
- ・英語の授業かわかる 65.7%
- ・家庭で勉強 72.0%
- ・先生からほめられる 75.5%

読書習慣については、昨年同様低い結果となり、家庭での読書習慣に課題があることがうかがえる。読書習慣への啓発を行っていく。英語の授業の様子を家庭で話す機会を設けるためにも、学年だよりやおたより等で授業の様子を伝えてき、自信を持つような声かけを行っていく。家庭での勉強も昨年同様の結果のため、習慣化を図るよう実践事例を紹介する。先生からほめられる経験については、教師も1日に1回以上児童をほめる意識で取り組んでいく必要がある。

(児童評価)

○評価の高い項目

- ・安全に過ごしている 93.0%
- ・学校は様子を伝えている 91.8%
- ・学校の勉強が分かる 91.1%

普段から担任の先生方の安全指導が児童へ浸透し結果に反映されていると思われる。安全に行動することやいじめがいけないと認識し、学校生活を送っていることがうかがえる。また、学校からの連絡を家庭に持ち帰り、連絡体制が構築されている結果が反映している。学習指導についても、先生方が呈根に指導している結果が反映されている。今後も継続していきたい。

●評価の低い項目

- ・読書 69.3%
- ・生活リズムの定着 75.6%
- ・英語の理解 77.0%
- ・いじめの相談に教師が乗る 77.0%

学校における読書時間の確保が課題である。隙間時間等で読書に親しむ時間を見つけ、声かけをしていく。生活リズム、あいさつについても家庭に協力を仰ぎつつ、学校でのあいさつ運動や生活リズムの定着呼びかけを行っていく。英語の理解については、市の取り組みの理解浸透を図り、継続指導が必要である。いじめの相談についても教育相談日を活用して、丁寧に児童の話聞く必要がある。

(教師評価)

教師の評価については、年間2回実施し、前期での評価から後期にどのように変容したのかを見取った。昨年同様、指導方法についての項目、家庭・地域との連携について課題が見られた。コロナ禍の中で活動や連携自体が難しく、次年度は、できるところからの実施計画を立てていく。